

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100442		
法人名	社会福祉法人 阿武福祉会		
事業所名	グループホーム であい		
所在地	山口県阿武郡阿武町大字木与10039番地の5		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町受理日	平成25年9月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりに寄り添った、きめ細かなサービスを心掛けています。 ・それぞれの思いに十分に耳を傾け、今まで送ってこられた生活が継続、維持できるように支援します。 ・家族や知人、地域の方々に自由に立ち寄って頂けるように、環境作りに努めています。 ・周囲の方々に認知症の理解を求める努力をします。 ・認知症のために失いかけてきた自信、生きがいを取り戻し、笑顔で日々が送れるように努めます。 ・不安のない、安定した生活環境が提供できるように、併設の施設、医療機関、地域の住民との連携を図ります。 ・地域の祭り、敬老会、行事等に積極的に参加し、地域との交流を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の思いを把握するために話をゆっくりと聞いたり、紙に書かれた言葉から推し測って、どこに行きたいのか、何をしたいのかなどを職員が話合われ、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組まれています。若い頃に魚の行商をして歩いた地にもう一度行きたいという利用者の希望にそった介護計画を作成され、大きな地図を作成して利用者の居室に貼って、懐かしい道筋や場所をドライブしたり、親交のあった人たちを訪ねては写真を撮って、その時の言葉を添えて、地図上に貼るなど、利用者一人ひとりの思いや希望にそった支援をされています。利用者それぞれの地元の敬老会や祭りに参加したり、地域で開催されるさまざまな交流行事や趣味の会への参加を支援しておられ、馴染みの関係や地域とのつながりを大切にしたい取り組みをしておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、常に意識・実践するように心掛けている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、月1回の職員会議で確認している。新任職員にはオリエンテーションで説明し、日々のケアの中で指導して、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。また、法人での行事の際は、広く地域に参加を呼びかけ、送迎なども行い、気軽に立ち寄っていただけるような機会を作っている。	自治会に加入し、小中学校の運動会や、道の駅まつり、花火大会、コンサートなどの地域行事に参加したり、利用者の地元の地区ふれあいまつりや敬老会に参加している。法人の夏まつりや盆踊り、クリスマス会に地域の人が参加したり、草刈りや縫い物などのボランティアの訪問や近所の人や家族から魚や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談があった際には、できる相談援助をしている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を回覧し、それを踏まえて改善策を話し合い、サービスの向上に努めている。	全員に自己評価表を配布し、職員会議で話し合っ管理者がまとめている。研修の中で評価を活かすようケアの振り返りを行っているが、全職員が評価の意義を理解しているとは言えない。	・全職員の評価の意義の理解と活用の検討
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティア団体、民生委員、利用者、職員の交流会を兼ねて会議を開催し、サービスの実際、評価への取り組み状況、事業所で特に力を入れていることなどを報告している。また、意見や要望を聞き、サービス向上につなげている。	年2回開催し、事業所の現状、利用者の状況、行事、外部評価結果などの報告を行い、避難訓練についてや認知症の理解について意見交換をしている。定期的な開催ができておらず、会議を活かした取り組みが十分とは言えない。	・運営推進会議を活かした取り組みの工夫 ・会議の開催回数の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町で行われる会議などには、主に管理者が出席し連携をとっている。 課題が生じた場合、解決法を協議できる体制を設けている。	運営推進会議出席時の他、町の会議(年2回)に出席して情報交換をしている。担当課に出向いたり電話で相談して助言を得たり、町担当者の来訪があり連携がとれている。地域包括支援センターとは困難事例の相談や情報交換を行って協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、職員は身体拘束について理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、年1回研修して全職員が身体拘束をしないケアについて理解して実践に取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる場合には管理者が指導したり、職員同士で注意をしている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する職員の共通理解ができていて、常に情報収集を行い、虐待がないように注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、制度の概要などについて学ぶ機会を持っているが、詳細についての理解には至っていないところがある。今後も継続して研修の機会を持ち、全職員が理解した上で活用できるようにしたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対して、契約書や重要事項説明書等の理解が得られるように、十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付体制について、入居時に説明し、施設内にも明示している。その他、電話や来訪の際に、気軽に意見や相談を言ってもらえるような雰囲気作りをしている。相談や要望があった際には、職員に周知徹底し、運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示し、入居時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、行事参加時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の際に、自由に意見を出し合える雰囲気作りをしている。意見については検討し、実践に繋げるようにしている。また、個別の意見も随時聞き入れるようにしている。	月1回の職員会議時に意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で個別に意見を聞いている。利用者の安全に関する業務改善や、行事の提案、外出支援についてなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に適切な評価をし、やりがいのある職場作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を計画し、勤務の一環として参加し、スキルアップに繋げている。資格取得に際しても、十分な支援を受けることができ、取得後は職場内で活かせる環境がある。	外部研修は段階的に勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は職員会議で復命し職員間で共有している。内部研修を月1回計画的に実施している他、町主催の職種別スキルアップ研修(年2回)や法人の他施設の研修会に参加している他、主任を中心に日常の業務の中で介護技術等の指導をするなど、働きながら学べるように支援している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者と連絡を取り合い、情報交換することで、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いを十分に聞き、安心して生活してもらえよう関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思ったり、困っていることを聞き、解決策を話し合い、いつでも受け入れることができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実状や要望を聞いた上で、地域の介護支援専門員と連携を取り合いながら、必要な支援を見極めるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のこだわりや、今まで送って来られた生活を大切に、それぞれの得意分野で十分に力を発揮していただいている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に食事や外出ができるよう、常に連携を取り合ったり、行事の際には参加をお願いし、寄り添ってもらえるような関係作りをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や町内の商店に出向いたり、地域の祭りや敬老会への参加も積極的に行っている。また、家族や友人が気軽に立ち寄れる場所であるよう、心掛けている。	家族の面会や友人、知人の来訪、行きつけの美容院の利用や馴染みの商店での買い物、本人の地元の敬老会や祭りへ参加するなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族の協力を得て、外泊や外食、法事への出席、墓参りなどの支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で食事やお茶の時間を過ごし、職員が間に入りながら、関わりをもっている。家事を一緒に行いながら、できないところを教えあったり、外出時には手を繋いだり、声をかけたりしながら、お互いに支え合う関係ができています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所による、契約終了時、情報提供を行うとともに、その後の相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のさりげない会話の中から、本人が思っていること、希望していることを把握するようにしている。困難な場合には、本人の行動などから、できるだけ思いを汲み取るようにしている。	入居時のアセスメントの活用や、日常の関わりの中でゆっくりと本人の話を聞いて、言動を日常記録等に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人から、これまでの生活や、馴染みの関係、暮らし方、環境などについて情報提供していただき、把握に努めている。また本人と、昔のことを回想しながら、どのような暮らしをしてきたか話してもらう機会をもっている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過表や業務日誌で毎日の状態を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を十分に把握・理解し、カンファレンス時に積極的に意見を出し合い、ケアプランを考えている。	魚の行商をして歩いた地をもう一度見たいという希望を介護計画に反映させるなど、本人や家族の意向や要望、職員やかかりつけ医、看護師等の意見を反映した介護計画を作成している。月1回カンファレンスを行い、モニタリングをして、3ヶ月毎に見直しをすると共に、状況の変化に応じた見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過表や業務日誌で毎日の状態を把握するように努めている。また、毎朝の引継ぎの際に、特に注意する点、変化、気づきなどを申し送るようにし、常に変化に対応できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族当の要望を聞き、管理者、職員、関係者で話し合いを持ち、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や各方面からのボランティアの方より、清掃作業、行事の協力を頂いており、必要時にすぐに要請できる体制を整えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めて、受診等必要に応じて対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果を日常記録簿に記載して、家族に連絡するなど情報を共有している。協力医療機関の医師が週1回往診し、緊急時や夜間対応の連携があるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師に、利用者の状況を伝え、常に把握してもらっている。定期的な訪問、要請時には迅速な対応を受けることができ、その後の対応についても、適切な指導を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が付き添い、本人の状態を文書や口頭で詳しく説明している。入院先への訪問、家族への連絡などを随時行いながら、情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した際の対応について話し合っている。実際に重度化した場合には、再度話し合いの場を持ち、かかりつけ医と相談しながら方針を決め、各部署と連携を取りながら支援している。	契約時に家族に方針を説明し話し合っている。実際に重度化した場合は、その都度家族やかかりつけ医、看護師等関係者と話し合い、移設を含めた検討をしている。法人の他施設と連携をとって看取りの支援をしている。「ターミナルケアマニュアル」があり内部研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故やひやりハットの記録をして、職員が周知するようにし、その後の事故防止に努めている。	ヒヤリハットや事故事例が発生した時には報告書に記録して、その日の職員で話し合い、各職員の出勤日に伝達して共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応や嚙下障害の訓練に取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災・緊急時の対応について話し合い、訓練を実施している。併設の施設や近隣住民の協力による訓練も実施し、災害発生時の迅速な対応ができるようにしている。	年2回、利用者や地域住民が参加して、昼夜を想定した避難訓練、通報訓練を実施している他、法人全体の土砂災害時の避難訓練や、業者の協力を得て消火器の使用訓練を実施している。緊急連絡網に自治会長が入っており地域住民への連絡体制や、法人全体での連絡、協力体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。記録物の保管に注意を払っている。	マニュアルがあり、法人の新人研修や日々のケアの中で指導しており、職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解している。特にトイレ誘導時や入浴時には誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録物の保管にも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定できる状況を作るようにしている。どうしても判断がつかねるような場合には、職員サイドで決定することもあるが、その後の反応について、きちんと確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりや介護日誌から、希望する過ごし方の状況を把握し、一人ひとりペースに合わせた、その人らしい暮らしができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む服装、化粧など、できるだけ希望に副えるようにしている。また、行き付けの美容院の予約、送迎なども行っている。季節や場所を考えたおしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にメニューを考えたり、調理、後片付けなどを行っている。また、季節の野菜が手に入った時には、それを活かしたメニューにしたり、あまり形にとらわれ過ぎずに、作ることと食べることの両方から、食事を楽しんでいる。	利用者の好みを取り入れた献立で、地元の旬の魚や野菜、差し入れの食材を使って、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に買い物に行ったり、下ごしらえや味付け、盛付け、片付けをして、同じ食卓を囲んで食事を楽しんでいる。誕生日には家族や職員と外食をして好きなものを注文したり、季節の行事食、運動会や花見には弁当を作って持っていったりと食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に栄養バランス等の指導を受けたり、献立を参考にさせてもらったりしている。嫌いな物や食べ物の硬さなどは、個別の対応をしている。食事摂取量が少ない時には、日誌に記入し、継続観察している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、自分のできる人については見守り、できない人については介助している。歯ブラシは定期的に交換している。また必要時には歯科受診の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導などを行い、オムツを使用しないで生活できるように支援している。	排泄表を活用して一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導をして、昼夜間ともトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に、積極的に食物繊維を取り入れるようにし、朝の牛乳やヤクルトの飲用もしている。毎日のリハビリ体操にも参加を促し、体を動かすようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴が可能で、時間帯も本人の希望に合わせて行っている。夕食後の入浴にも対応している。	夕食をはさんで16時から20時の間、毎日、希望に合わせてゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には時間をずらしたり、声かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭での対応をしている。柚子湯や菖蒲湯、入浴剤の使用、外湯(道の駅、施設の大浴場)などで、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼休みをしたり、体調によっては個別に休息をとってもらおうようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前や目的、用法・用量については、一覧表を作り把握している。薬ケースを使用し、服薬の際には再度名前を確認することで、飲み忘れ、誤薬のないようにしている。症状の変化については、随時看護師に連絡し、医療機関へ連絡をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意としている分野を探り、実施や達成することで楽しみを見つけ、次のステップに繋げていくようにしている。	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、縫い物、小物や季節ごとの貼り絵づくり、生け花、習字、風船バレー、音楽療法、カラオケ、コンサート、法人のレクリエーション同好会、クリスマス会でのハンドベル発表など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望による、買い物や外出、また季節に合わせて、お花見、梨狩り、みかん狩り、小旅行などを行っている。家族の方との外出、地域の交流会への参加なども積極的に行っている。	日頃の散歩や買い物の他、小中学校の運動会、利用者の地元のまつりや敬老会、盆踊り、町福祉スポーツ大会、風船バレー大会、コンサート、花火大会、道の駅の温泉、昔の職場周辺や自宅周辺等へのドライブ、水族館、ミカン狩り、梨狩り、ぶどう狩り、お花見などに出かけ、家族の協力を得て外食、法事への参加、墓参りなどの外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金の中からの買い物の際には、支払いをお願いするようにしているが、お金の扱いができる利用者が少なくなっている。食材の買出しの際にもお願いするが、人のお金は触りたくない、などの理由で、主に職員が行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には、電話をかける手伝いをしている。また携帯電話を所有している方については、自由に使ってもらっている。年賀状を自分で書いてもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光に配慮した造りで、自然の光の中で、心地よく生活することができる。天井が高く、威圧感を与えないように工夫されている。換気や掃除に配慮している。また、季節の花と一緒に生けるなどして、居心地よい空間にしている。	居間や食堂の天井が高く開放感があり、大きな窓から外の景色を眺めることができる。廊下にはサンタクロースの大きな貼り絵を飾り、居間にはクリスマスツリーが置いてあり季節を感じることができる。テレビの前に置いたソファや畳コーナーの炬燵などでゆっくり寛ぐことができ、食卓には花を飾り、観葉植物を置いている。換気や温度、安全に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間には冬場はコタツを出して、寛ぎやすい環境を作っている。居間にはソファを置き、テレビを見たり、お茶を飲んだりすることができるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具や大切な物、思い出のある品物等を持って来ていただき、今までの暮らしの延長線上に、今の暮らしがあるよう工夫している。	ダンス、テレビ、時計、ぬいぐるみ、お気に入りのカレンダー、写真、アルバム、縫い物の作品、家族からの差し入れの花を生けるなど、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その都度場所をわかり易く説明し、混乱を最小限に抑えるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名: グループホームであい

作成日: 平成 25年 8月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議について、定期的な開催ができておらず、会議を生かした取り組みが十分とは言えない。	会議を定期的で開催し、外部参加者からの意見等をサービス向上に活かす。	会議開催の年間計画を作成し、実施する。	H25.4.1～ H26.3.31
2	35	内部研修で、緊急時の対応訓練に取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでにはいたっていない。	応急手当や初期対応の定期的訓練を実施し、全職員が適切な対応を行えるようになる。	職場内研修の中に緊急時の対応、事故防止の対応などを組み入れる。 協力施設の研修会に参加する。 研修のほかに、日常の業務の中で、『このようなことが起こった場合には』という想定で、対応を学ぶ機会を取り入れる。	H25.4.1～ H26.3.31
3	4	評価を活かすようケアの振り返りをしているが、全職員が評価の意義を理解しているとは言えない。	全職員が評価を実施する意義を理解し、評価を活かして、具体的な改善に取り組む。	評価結果を全員が周知し、改善に向けた具体策について、意見を出し合う。 次回の自己評価の際は、職員会議等を利用し、全員で評価を行う。	H25.4.1～ H26.3.31
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。